

注:太字は定期接種(一定の年齢、月齢で原則としてすべての子どもに接種)、細字は一部の特定対象者に接種。

予防接種種類	6w	2m	10w	3m	14w	4m	11-14m	15-23m	5-6y	9y	14y	17y
BCG ^{*1} TB(tuberculosis)												
DPT(三種混合) ^{*2} Diphtheria,Pertussis,Tetanus		DTaPHibHep - IPV ^{*12} ①		DTaPHib- HepIPV②		DTaPHib- HepIPV③	DTaPHib- HepIPV④		Tdap ^{*13} ⑤		TdapIPV ^{*14} ⑥	
ポリオ ^{*3} Poliomyelitis		DTaPHibHep - IPV ^{*12} ①		DTaPHib- HepIPV②		DTaPHib- HepIPV③	DTaPHib- HepIPV④				TdapIPV ^{*14} ⑤	
B型肝炎 ^{*4} Hepatitis B		DTaPHibHep - IPV ^{*12} ①		DTaPHib- HepIPV②		DTaPHib- HepIPV③	DTaPHib- HepIPV④					
Hib ^{*5} Haemophilus influenzae type b		DTaPHibHep - IPV ^{*12} ①		DTaPHib- HepIPV②		DTaPHib- HepIPV③	DTaPHib- HepIPV④					
肺炎球菌(小児用) ^{*6} Pneumococcus		PCV①				PCV②	PCV③					
ロタウイルス ^{*7} Rotavirus	RV①		RV②		RV③							
MMR ^{*8} Measles,Mumps,Rubella							MMR①	MMR②または MMRV ^{*15} ②				
水痘 Chickenpox (Varicella)							水痘①	水痘②または MMRV ^{*15} ②				
インフルエンザ Influenza							(慢性疾患を有する小児に)					
A型肝炎 ^{*9} Hepatitis A												
髄膜炎菌 ^{*10} Meningococcus							MenC-conj①					
パピローマウイルス ^{*11} Human papillomavirus											HPV x2(女性)	

《以下は一般の方にも理解していただくために本図作成者が加えた説明です》

- *1 BCGは結核のリスクが低下した先進国で定期接種されていない国があります。一方、発展途上国の多くでは出生時(新生児期)に接種します。
- *2 日本ではDPTですが一般には“DTP”と表現されます。先進国では精製百日咳ワクチンを含むDTaP(わが国もDTaP)が、発展途上国では百日咳菌体ワクチンを含むDTwPワクチンが主流です。
- *3 ポリオワクチンには、経口生ワクチン(OPV)と、不活化ワクチン(IPV)とがあります。ほとんどの先進国ではIPVが主流になっています。わが国では2012年9月からIPVに切り替えられました。
- *4 WHO(世界保健機関)はB型肝炎ワクチンをすべての子どもに接種するように勧告しており、現在では世界のほとんどの国で乳児期の定期接種に加えられています。
- *5 Hib(Haemophilus influenzae type b:インフルエンザ菌b型)は乳幼児の細菌性髄膜炎の最も頻度の高い原因菌です。
- *6 肺炎球菌は乳幼児の細菌性髄膜炎の主要原因菌であり、肺炎や中耳炎の原因ともなります。乳児期からの接種は結合型肺炎球菌ワクチン(Pneumo-conj=PCV)です。7価、10価、13価ワクチンがあります。
- *7 ロタウイルスは乳幼児の感染性胃腸炎の主要な原因ウイルスです。ロタウイルスワクチンはいずれも経口生ワクチンで2種類(ロタリックスとロタテック)が市販されています。
- *8 MMRワクチンは麻疹、おたふくかぜ、風疹の混合ワクチンです。世界中で広く使用されており、MRワクチン(麻疹+風疹)は少数派です。
- *9 A型肝炎は生の食べ物や飲み物を通じて経口感染するウイルス性肝炎です。食品衛生環境の不良な地域ではリスクが高まります。
- *10 髄膜炎菌はHibや肺炎球菌と異なり、年長児や成人でも髄膜炎の原因となります。わが国では4価髄膜炎菌ワクチンMenACWY(メナクトラ)が市販されています。
- *11 HPV(ヒトパピローマウイルス)は子宮頸がんなどの原因となるウイルスです。サーバリックス(Cervarix:2価)とガーダシル(Gardasil:4価、9価)のワクチンがあり、同一種類で完了します。
- *12 多種混合ワクチン:DTaPまたはDTwPの三種混合ワクチン(*2参照)を基本として、Hib、B型肝炎(Hep)、不活化ポリオ(IPV)などの混合ワクチンが多くの国で使用されています。
- *13 Tdap: 年長児ないし成人用に成分調整された破傷風、ジフテリア、百日咳三種混合ワクチンです。
- *14 TdapIPV: Tdap(*13)に不活化ポリオワクチンを加えたものです。
- *15 MMRV: 麻しん、おたふくかぜ、風疹、水痘の4種混合ワクチンです。

《その他の主な使用可能ワクチン》: DTaPHibIPV、DTaP、B型肝炎、ダニ脳炎(TBE:リスクグループに)

《2014年7月15日版からの主な記載変更事項》

- 1) HPVワクチンは女子だけで、9~12歳で3回でしたが、9~14歳で2回に変更になりました(ただし、キャッチアップは14歳~17歳で3回)
- 2) 小児用肺炎球菌ワクチンの3か月時がなくなって、2, 4, 11~14か月の3回に減りました。